

【施策10】 地域資源を活かす観光産業の革新・成長

No. (5)平成29年度の主な成果	(6)問題点(隘路)・課題	(7)当該年度を含む今後の方向性
<p>施策10 ①</p> <ul style="list-style-type: none"> 被災したホテル・旅館・温泉施設等の復旧等を支援するため、383件分(交付申請予定件数)のグループ補助金を認定。また、トイレや客室の洋式化等の観光客受入環境整備を支援 阿蘇アクセスマップを道路の復旧状況に応じ改訂し、羽田空港等に配布するなど正確な情報を発信。また、JR九州等と連携して「熊本・大分キャンペーン」を実施し、阿蘇での乗馬体験プランなどの旅行商品造成等により、県内全域への誘客を推進 県等が出資する㈱くまもとDMCに対する運営支援を通じて、熊本・鹿児島県の2県をまたぐ香港向けの広域観光ルートツアーなど着地型旅行商品の造成や、観光産業の経営者等向けセミナーの開催など人材育成等を実施 *DMO(C):地域と協同して観光地域づくりを行う法人 観光客のニーズ等を踏まえ、客単価の向上や宿泊者数の増加を目指した「下田温泉ツーリズム」の実施に当たり、ガイド育成等を支援。また、観光事業者向けインバウンドセミナーで、モバイル決済等の受入環境整備の必要性を周知・啓発 インバウンドの早期回復・拡大に向け、現地セールスやメディア等への露出を強化。また、宿泊・飲食スタッフ等のおもてなし力等の向上を支援。17の民間宿泊施設等「くまもとフリーWi-Fi」を整備するとともに、英語・韓国語・中国語のグルメガイド計4万部を作成・配布 村道長陽大橋ルートが開通し、国道57号北側復旧ルートや国道325号阿蘇大橋ルートの復旧が着実に進捗。また、主要観光地への道路整備では、熊本天草幹線道路の、大矢野バイパスが開通(H30年5月)するとともに、本渡道路の橋梁工を推進 	<ul style="list-style-type: none"> ホテル・旅館・温泉施設等の早期復旧に加え、インバウンド対応を目指したホテル・旅館等の機能向上も見据えた支援が必要 未だ道路が復旧途上であり熊本に行くのは難しいと考えている県外の方も多く、国内客の観光客数が震災前の水準に戻っていない状況 観光産業の再生のため、マーケティング等に基づく観光戦略の下、その中核を担うDMCによる支援が必要。また、滞在型観光の推進のため観光拠点の整備や受入態勢づくりが課題 客単価の向上や宿泊日数の増加を図る取組みを進めるため、観光客のニーズ等に合った取組みを行う事業者や地域の掘り起こしが必要 九州各県に比べ外国人宿泊者数の伸び率が低い状況にあり、リピート率向上のために、宿泊・飲食・観光施設の多言語対応や、「くまもとフリーWi-Fi」の整備箇所拡大等受入環境の整備が必要 代替道路では工事車両等の交通量増加に伴い激しい損傷が発生。国の代行工事に係る国、町村と連携した用地取得等が必要。また、本渡道路については、用地取得を円滑に進めることが必要 	<ul style="list-style-type: none"> グループ補助金による復旧と施設の機能向上への支援を早急を実施するとともに、ビッグデータを活用したマーケティングに基づく戦略の下、観光産業の高付加価値化や、上質なサービスを提供する高度人材育成・確保を支援 風評被害の払拭と旅行需要の早期回復に向け、引き続きアクセス等の正確な情報を発信するとともに、大河ドラマ「いだてん」や崎津集落などを活用した旅行商品の開発・PRを実施 DMOと連携しビッグデータに基づくマーケティング等を行い、県内各地の様々な観光資源を活用し、観光客のニーズに応じた滞在型観光等を推進するとともに、DMO形成を目指す団体・地域に対し観光地域づくり関連のアドバイザー派遣により支援 客単価の向上等を図るため、観光客の視点に立った満足度の高いサービスの開発、ニーズに合わせた宿泊施設の向上や、着地型体験プログラムの開発に取り組み事業者や地域を支援 外国人旅行者の満足度を高めるため、多言語コールセンターの設置・運営(H30年4月～)、「くまもとフリーWi-Fi」の更なる整備、災害対応力の強化など受入環境整備を推進 代替道路の安全確保を図るとともに、1日も早い復旧に向け、国の代行工事に協力。本渡道路については用地取得及び橋梁工を推進。また、国道3号及び国道57号の渋滞解消に向け幹線道路等の整備を促進
<p>施策10 ②</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たな観光ルート「くまもと感動物語」を造成し、阿蘇を含む県内5地域で29の着地型体験プログラムを整備。「火山と共存する阿蘇人(あそもん)から学ぶ防災」と題した教育旅行向けプログラムを阿蘇市と共同開発し、県外高校生130名を受入 「食」で観光客を呼び込む熊本グルメツーリズムとして、タクシーで食べ歩きを行う「くまもとグルメタクシー」の試験運行や、阿蘇を含む県内各地の「旅のごちそうメニュー」の提供を実施 Mr.Children、DREAMS COME TRUEなどの大型コンサート等を誘致し、県内外から多くの誘客に成功。また、Jリーグやサッカー日本女子代表等のキャンプは5件を誘致 「下田温泉」(天草市)や日本の棚田百選「松谷棚田」(球磨村)などの地域資源を活かした交流促進の取組みを支援。また、「道の駅」の集客力等の向上に向け、先進事例紹介等の研修を実施 外国人宿泊者数の増加を図るため、羽田空港や東京都内の駅等での共同広告や海外の旅行会社等に県内を視察してもらうファミツアーを実施するなど東京都、九州観光推進機構及び九州各県等と連携したプロモーションを実施 肥薩おれんじ鉄道は、沿線市町等と連携し、イベントの開催や、観光列車の利用等を促進するとともに、肥薩おれんじ鉄道を舞台とする映画制作が決定。また、天草エアラインは、年間利用者数約8万人を維持 	<ul style="list-style-type: none"> 国道57号や阿蘇大橋等が復旧中である阿蘇地域への観光客や、教育旅行客の回復が鈍く、プログラムの磨き上げ等による新たな誘客促進が必要 更なる誘客のため、着地型体験プログラムの磨き上げや、旅行会社等へツアー造成の働きかけに加え、県内各地域を周遊する仕掛けが必要 大型コンサート、スポーツ大会の誘致にあたっては、公共交通機関が少なく、また駐車場が十分ではないため、会場へのアクセスが不便であることが課題 地域の特性を活かした取組みの推進には、地域資源の発見や更なる磨き上げ、事業の掘り起こし等が必要 全国の外国人観光客に占める九州のシェアは、東アジアは増加傾向だが、東南アジア及び欧米は減少傾向にあるため、オール九州での効果的なPRが必要 肥薩おれんじ鉄道は、誘客促進に向け沿線市町等との連携強化が必要。天草エアラインは、1機での運航のため必然的に機材整備・乗員訓練等による運休が発生 	<ul style="list-style-type: none"> 熊本城や阿蘇地域の復旧・復興過程を活用したツアーを新たな誘客策として構築・展開。また、熊本地震から防災を学ぶ教育旅行は、ガイド育成や県内4市町村と連携してプログラムの整備を推進 交流人口拡大のため、地元観光関係者の旅行商品等の磨き上げやその販売を支援するとともに、崎津集落や大河ドラマ「いだてん」などを活用した旅行商品の開発等、地域資源を活かした取組みにより誘客を促進 大型コンサート等の主催者に移送計画等のノウハウを提供するなど、円滑な開催に向けて運用を支援。また、復興支援の機運の高まりにより、多くの開催が見込まれる大型コンサート等が継続して開催されるよう仕組みを構築 県内各地域の特性や資源を活かした誘客促進、外部人材の活用による取組みの深化、ICTを活用した情報発信、「道の駅」の先駆的な取組みの情報共有等の取組みを支援 九州観光推進機構を中心に九州が一体となり、海外でのプロモーション活動及び招請事業を行うとともに、東南アジア及び欧米豪に対しても、現地メディア等を活用した情報発信及び現地旅行会社が参加するファミツアーを実施 肥薩おれんじ鉄道は、沿線市町等と連携し、映画とのタイアップや観光列車等を活用して誘客を促進。天草エアラインでは、同型機保有の他の航空会社との協業体制を構築し、就航率を向上させる